



労働政策研究報告書 No. 142

2012

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

高齢者の社会貢献活動に関する研究
— 定量的分析と定性的分析から —

労働政策研究・研修機構

高齢者の社会貢献活動に関する研究

— 定量的分析と定性的分析から —

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

ま え が き

団塊の世代が 60 歳に到達し、高齢社会が本格到来した。我が国では人口減少と高齢化が進み、支える世代と支えられる世代のバランスが崩れてきている。支えられる世代、つまり高齢者は、自ら支える側になることが求められている。

本報告書は、60 歳以降の新しい働き方の可能性を探るものである。「働く」という言葉を改めて考えれば、その範囲は賃労働を越えて定義出来る。社会貢献活動は「労働」の対価として賃金という形で本人には還元されないが、その価値は地域や社会に「時間的寄付」として投下される。広い目でみれば、地域活動や NPO 活動における無償、あるいは有償のボランティア活動もまた「労働」の一形態であろう。

こういった視点から、本報告書では高齢者が社会貢献活動に参加する要因や、投下される時間を規定する要因などを分析し、さらには高齢者には密接な健康問題と社会貢献活動の関係や、生活満足度について言及している。

また、日本の高齢社会は地域によって大きな特色がある。現在高齢期に入った団塊世代が、1960～1970 年代の高度経済成長期に地方から都市へと人口流動した影響である。長年にわたって過疎化が続いた地方と、爆発的に高齢化が進む都市周辺部では社会貢献活動の形態は異なる。事例調査では日本の三地点での社会貢献活動に注目し、その様相と課題を抽出している。

本報告書が全国の行政、政策担当者をはじめ、NPO や地域組織などの社会貢献活動に携わる団体や、ボランティアに従事する（しようと考えている）方々に資することがあれば幸いである。

2012 年 3 月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 山 口 浩 一 郎

「高齢者の社会貢献活動に関する研究——定量的分析と定性的分析から」執筆担当者
(執筆順)

氏名	所属	執筆章
おの あきこ 小野 晶子	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第Ⅰ部 第1、2章 第Ⅱ部 第9、12章
ま きんきん 馬 欣欣	労働政策研究・研修機構 アシスタントフェロー	第Ⅰ部 第1章第4節 第3、4章
うらさか じゅんこ 浦坂 純子	同志社大学社会学部教授	第Ⅰ部 第5章
いしだ ゆう 石田 祐	国立明石工業高等専門学校専任講師	第Ⅰ部 第6章
かじたに しんや 梶谷 真也	明星大学経済学部准教授	第Ⅰ部 第7章
もりやま ともひこ 森山 智彦	同志社大学社会学部助教	第Ⅰ部 第8章
よねざわ あきら 米澤 旦	東京大学大学院人文社会系研究科 社会学専門分野博士課程後期	第Ⅱ部 第10、11章

上記以外の研究参加者

たなか なおき 田中 尚輝	NPO 法人市民福祉団体全国協議会理事
はまだ こうじ 浜田 浩児	労働政策研究・研修機構 副所長
うめざわ しんいち 梅澤 真一	労働政策研究・研修機構 統括研究員

目 次

第 I 部 定量的分析編

第 1 章 高齢者の社会貢献活動—分析のフレームワークと要旨—	1
第 1 節 問題意識と研究の目的	1
第 2 節 分析課題と方法	2
第 3 節 ボランティア活動参加の経済理論	4
1. 利他的行動	4
2. 利己的行動	6
第 4 節 ボランティア活動参加と活動時間に関する先行研究	8
1. 個人属性	8
2. 寄付金、所得要因とボランティア活動の関係	11
3. 地域の社会制度・財政支出等との関係	12
第 5 節 各章の要旨と知見	14
1. 第 I 部第 2 章「高齢者の社会貢献活動—基礎的集計と分析—」の要旨	14
2. 第 I 部第 3 章「高齢者が社会活動に参加する決定要因—ボランティア供給を中心に—」の要旨	14
3. 第 I 部第 4 章「中高年齢者における社会貢献活動の参加動機およびその活動形態に与える影響」の要旨	15
4. 第 I 部第 5 章「高齢者の就業と社会貢献活動—移行パターンに見る代替・補完関係—」の要旨	15
5. 第 I 部第 6 章「高齢者の社会貢献活動が促進される地域特性に関する実証分析」の要旨	16
6. 第 I 部第 7 章「高齢期の健康と社会貢献活動」の要旨	16
7. 第 I 部第 8 章「高齢者の社会貢献活動への参加が生活満足に与える影響」の要旨	17
8. 第 II 部第 9 章「都市と地方の高齢化と社会貢献活動—事例調査のフレームワーク—」の要旨	18
9. 第 II 部第 10 章「環境保全を中心に広がった地域に根差した問題解決の核組織—グランドワーク三島の地域活動—」の要旨	18
10. 第 II 部第 11 章「大都市郊外の地域活動団体と高齢者ボランティアの緩やかな結合—「地域創造ネットワークちば」と「木楽会」を事例として—」の要旨	18
11. 第 II 部第 12 章「高齢化に直面する地域活動と次世代への継承—世界遺産「石見銀山」大森町の住民自治活動を中心に—」の要旨	19

第2章 高齢者の社会貢献活動—基礎的集計と分析—	23
第1節 基礎集計.....	23
第2節 基礎分析—社会貢献活動を行っている人はだれか—.....	34
1. 分析結果.....	35
2. まとめ.....	37
第3章 高齢者が社会活動に参加する決定要因—ボランティア供給を中心に—	39
第1節 はじめに.....	39
第2節 先行研究のサーベイと仮説の設定.....	40
1. 先行研究のサーベイ.....	40
2. 本章の特徴.....	43
3. 仮説の設定.....	43
第3節 分析の枠組み.....	45
1. データおよび変数設定の説明.....	45
2. 推定モデル.....	52
第4節 計量分析の結果.....	53
1. 高齢者における社会活動類型の選択関数に関する分析結果.....	53
2. 高齢者におけるボランティア供給時間関数に関する分析結果.....	57
3. 高齢者におけるボランティア供給に関する男女比較.....	60
第5節 まとめ.....	64
第4章 中高年齢者における社会貢献活動の参加動機およびその活動形態 に与える影響	73
第1節 はじめに.....	73
第2節 データから観察された活動参加動機とボランティアなどの 社会貢献活動の実態.....	74
1. 個人属性からみた参加動機類型の分布.....	75
2. 参加動機類型別にみた社会貢献活動への取り組みの状況.....	81
3. 参加動機類型別にみた活動時間の分布.....	81
4. 参加動機類型別にみた有償活動・無償活動の状況.....	82
第3節 計量分析の枠組み.....	83
1. データおよび変数設定の説明.....	83
2. 推定モデル.....	88
第4節 計量分析の結果.....	90
1. 社会貢献活動の参加動機の決定要因に関する分析結果.....	90

2.	活動参加動機と社会貢献活動への取り込みに関する分析結果	96
3.	活動参加動機とボランティア活動時間に関する分析結果	97
4.	活動参加動機と有償活動に参加する確率に関する分析結果	99
第5節	まとめ	101
第5章	高齢者の就業と社会貢献活動—移行パターンに見る代替・補完関係—	103
第1節	はじめに	103
第2節	先行研究	104
1.	高齢者の就業について	104
2.	高齢者の社会貢献活動について	105
第3節	問題意識	107
第4節	分析のフレームワーク	109
第5節	データに見る社会貢献活動の状況	109
第6節	就業パターンの類型化	111
1.	類型化の手順	111
2.	現役タイプ・就業希望タイプ・引退タイプの特徴	112
第7節	計量分析	118
1.	推定モデルの設定	118
2.	推定結果	119
第8節	総括	122
第6章	高年齢者の社会貢献活動を促進する地域特性に関する実証分析	125
第1節	はじめに—背景と目的	125
第2節	現状把握—社会貢献活動と地域環境	126
1.	社会貢献活動と個人・地域の特性	126
2.	地方自治体における社会貢献活動の促進方策	131
第3節	先行研究—社会貢献活動の促進要因	132
1.	個人特性	132
2.	地域特性	134
第4節	データ—JILPT 調査データに見る社会貢献活動の地域間格差	135
1.	社会貢献活動の地域差	135
2.	社会貢献活動と地域特性の関係性	138
第5節	実証分析—地域特性が社会貢献活動への参加に与える影響	142
1.	推定モデルと変数	142
2.	推定結果	144
第6節	おわりに—社会貢献活動を促進しうる地域環境の整備に向けて	146

第7章 高齢期の健康と社会貢献活動	150
第1節 はじめに	150
第2節 先行研究と本章の分析の枠組	151
第3節 使用するデータ	152
第4節 推定結果と考察	157
1. 社会貢献活動への参加は健康を増進させるのか	157
2. 社会貢献活動・就業と健康状態との関係	161
第5節 結びにかえて	163
第8章 高齢者の社会貢献活動への参加が生活満足に与える影響	165
第1節 はじめに	165
第2節 先行研究	166
1. 海外の先行研究	166
2. 日本の先行研究	167
第3節 理論的枠組み・仮説	167
第4節 方法	169
第5節 分析結果・考察	171
1. 属性別に見た社会貢献活動への参加率	171
2. 社会貢献活動への参加状況が生活満足に及ぼす影響	173
3. 年齢別、社会貢献活動への参加と就業状況が生活満足に及ぼす影響	175
4. 暮らし向きの違いによる、社会貢献活動への参加状況が生活満足 に及ぼす影響の違い	178
5. 世帯構成、婚姻状況別、社会貢献活動への参加状況が生活満足に及ぼす影響	179
6. 考察	181
第6節 まとめ	182

第Ⅱ部 定性的分析編

第9章 都市と地方の高齢化と社会貢献活動—事例調査のフレームワーク—	187
第1節 問題意識	187
第2節 調査対象と調査概要	189
1. 調査対象の選定とその地域の特徴	189
2. 聞きとり調査、設問のポイント	195
第3節 第Ⅱ部のまとめと知見	198

第 10 章	環境保全を中心に広がった地域に根差した問題解決の核組織	
	—グラウンドワーク三島の地域活動—	200
第 1 節	グラウンドワーク三島	200
1.	地域の特性と団体の概要	200
2.	地域に根差した GW 三島の組織構成	201
3.	GW 三島における高齢者の活用—サラウンド層を中心に	203
第 2 節	遊水匠の会	205
1.	団体の概要	205
2.	事業における高齢者の位置づけ	208
3.	高齢者にとっての社会貢献活動の意義と定着に係る要因	208
第 3 節	地域に根差した活動と高齢者の位置づけ	210
第 11 章	大都市郊外の地域活動団体と高齢者ボランティアの緩やかな結合	
	—「地域創造ネットワークちば」と「木楽会」を事例として—	212
第 1 節	地域創造ネットワークちば	212
1.	地域の状態と団体の概要	212
2.	都市部におけるコーディネート事業	213
3.	定年後の高齢者男性の地域とのつながりの弱さ	216
第 2 節	木楽会	218
1.	団体の特徴	218
2.	社会貢献と趣味活動のつながり	219
3.	高齢者活用の工夫	222
第 3 節	都市近郊部における高齢者と社会貢献活動	223
第 12 章	高齢化に直面する地域活動と次世代への継承—世界遺産「石見銀山」大森町の住民自治活動を中心に—	225
第 1 節	現在の石見銀山概観	225
第 2 節	石見銀山・大森町の歴史と住民活動につながるアイデンティティ	228
第 3 節	世界遺産登録にいたる住民活動	230
1.	地域問題の発生と住民活動の発足	230
2.	「一心会」の立ち上げと地域活動の盛り上がり	232
3.	世界遺産登録をめぐる対立と収束	234
第 4 節	地域に根差した企業の役割	236
第 5 節	テーマ型組織（NPO）の地域における補完的活動	238
1.	石見銀山ガイドの会	238

2. 緑と水の連絡会議	241
第6節 まとめと考察—高齢化と次世代への継承	245